

ボランティア大活躍！ 子どもたちニコニコ 図書館のおはなし会



おはなし会ってどんな会？

本好きの子に育つには、幼い頃の楽しい記憶が大切

子どもたちが自分で本を選んで楽しめるようになるためには、大人の助けが必要ですが、中でも幼い子どもたちは、一般的に文章をすらすらと読むことができません。

また字の読み方を知らなかったり、知ってはいても、ひとつひとつの字を追うことに精一杯では、内容を楽しむことができません。

例えば、絵本を読む時、大人に文章を読んでもらう（読み聞かせ）ことで耳からおはなしの流れをつかみ、子ども自身は絵を読むことによって始めて一冊の絵本を楽しむことができます。

また、数ある絵本の中から子どもたちが安心して楽しめるものを、大人が選びとってあげることも重要です。年齢や理解度、興味を持ちそうな内容を察してあげられるのは、その子の周りにいる大人です。

「楽しかったから、また読んで！」読んでもらえる時間が待ちきれないから、「自分でも読みたいな...」

そんな大人との幼い頃の楽しい記憶が、自ら本に手を伸ばす子どもへと育てることに



なるのではないのでしょうか。

「本館・分室おはなし会」と「学校おはなし会」

「たくさんの子どもたちに、絵本の楽しさを伝えたい！」

そんな思いから、羽村市図書館本館では毎月定例の「幼児向け（第2土曜）」と「小学生向け（第3土曜）」に加え、年間4回「赤ちゃん向け」のおはなし会を行っています。

市内に4箇所ある分室・図書室でも年間各2回ずつ「おはなし会」を行っています。

また、希望する小学校にも出向いて、授業の時間を使った「学校おはなし会」も開催しています。

開催時間など詳しくは、図書館にお問合せください（TEL 554-2280）。

「おはなしボランティア」のなか

様々な年齢の子どもたちに合わせた本を選び、紹介するためには、知識と経験などの技術が不可欠です。加えて、

数多く寄せられるニーズに対応するには、動員できる人数

も確保しなければなりません。

このため、図書館の児童サ

ービス「おはなし会」には「おはなしボランティア」の力が欠かせません。

現在、羽村市図書館には4つの「おはなしボランティアグループ」が登録しています。

各サークルが得意とする技術を磨き、図書館職員と協力してたくさんの子どもたちにおはなしの楽しさを伝えてくれています。

携わる人が増えるということとは、寄せられる知識のバリエーションが広がるということとです。打合せを重ね、知識を共有することで、より魅力的なおはなしの世界を膨らませることができるようになります。

おはなしを表現する力は、その方の人柄や個性によって全く違います。同じ本を読んでも、語り手が変われば味わいも変わります。そこが肉声で表現する「おはなし会」の魅力でもあります。

図書館の児童サービスの中では、おはなしを語る行為を「心にタネを蒔く」と表現することがよくあります。

これは、おはなしを聞いた直後に受ける様々な感想とは別に、心の奥底にひっそりと根付いた何かが、何年・何十年もしてからフツと心の中に芽吹くことがあるからです。

そして、そのタネが長い年月を経ているにも関わらず、消えずに残った理由は、おはなしそのものの魅力に加えて、語られた声や表現による印象深さという語り手の力があるのです。

「子どもたちにおはなしの世界の楽しさを伝えたい」という共通の想いのもと、ボランティアとして集まってきた皆さんの活動が、未永く子どもたちの心を照らし続けてくれますようお願いできません。

12月8日（土） 午前10時45分から、図書館2階ボランティア室で、おはなしボランティアの活動を紹介する「おはなし夢フェスティバル」を開催します。赤ちゃんから大人まで楽しめる内容なので、是非遊びに来てください。大人だけの参加も大歓迎です。

